指導者：大阪府 総務部 統計課職員

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　　　 ○○ ○○、○○ ○○

**統計教育出前講座 学習指導略案**

１　日　　時　平成○年○月○日（○曜日） 第2校時（ 9:50～10:40）

２　学　　校　大手前本館高等学校

３　学年・組　第1学年○組(○○名)

４　場　　所　ＩＣＴ教室

５　テ ー マ　「統計に親しもう！」

６　本時について

　　○本時の目標　・学校の学習方針によりフィールドワークを行うこととなっており、フィールドワークで、興味・関心のあることについて調査しまとめるため、統計調査の過程(問題の発見⇒調査の計画⇒データの収集⇒分析⇒結論)を習得させる。

　　　　　　　　 ・アンケート調査における調査表作成・インタビュー手法等を理解させる。

　　　　　　　　 ・フィールドワークの作業を通じて、統計についての知識及び技能を育てる契機とする。

　　○本時の展開

＊配付物：<個 人>「調査分析の方法」レジュメ

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **生 徒 の 学 習 活 動** | **指 導 （ 進 行 ）上 の 留 意 点** | **読み取り・評価****に基づく支援** |
| １　本時のテーマを知る。 [ｽﾗｲﾄﾞ1･2](1.5分）・「統計」と聞いて、思い浮かぶもの　を発言する。＜予想される生徒の反応＞「数字」「表」「グラフ」等◇　**9年前の「 9月29日の大阪市の上水道使用量 」の変化を表した折れ線****グラフを見て、気づくこと**２　提示されたグラフを見て、特徴を考える。 [ｽﾗｲﾄﾞ3]（7分）　・特徴的だと思う部分を発言する。　＜予想される生徒の反応＞「水道管の破裂」「ワールドカップ」「地震」等・市民の行動の特徴が、グラフによく表れていることから、統計と生活の深い関連を知る。**◇　統計を使った問題の発見から解決まで**３　社会や生活のなかで統計はどのように活かされているか考えてみる。 [ｽﾗｲﾄﾞ4～7]　（41分）ＰＰＤＡＣサイクルを理解する。[ｽﾗｲﾄﾞ5]アンケート調査、インタビュー調査を行う方法を理解する。 [ｽﾗｲﾄﾞ6]「調査分析の方法」を理解する。インターネットを利用して、国勢調査の統計表のデータを得られることを理解する。 [ｽﾗｲﾄﾞ7]**◇　統計を活かすために**４　統計を活かすための過程（**ＰＤＣＡ**　**サイクル**）を知る。[ｽﾗｲﾄﾞ8]（1分）[ｽﾗｲﾄﾞ30] （0.5分）**◎ この授業をきっかけに、生活の中で統計に親しんでいこう**  | ○　本時は「統計に親しもう！」のテーマで学習することを伝える。○ 「統計」と聞いて、何が思い浮か　ぶかを問いかける。○　グラフをスクリーンに提示し、特徴的な部分はどこかを問いかける。○　21:00頃に使用量が激減している理由を問いかける。○　進んで発言できる生徒がいれば、選択肢を示す前に発言を引き出す。○　正解（タイガース優勝）を示す。○　21:00頃の優勝決定時と、その前後の上水道使用量変化を解説する。　＊日常生活の変化がグラフに表現されている。○　社会や生活の中で、数字を漠然と集まるだけでは、問題や課題は見えてこない。フィールドワークの調査により集められた数字をデータとして分析することから、問題や課題が発見できる。ＰＰＤＡＣサイクルついて説明する。ＰＰＤＡＣサイクルは、問題解決のためのひとつのフレームワークであり、標準的な手法である。このサイクルを理解することで、調査・研究のプロセスがスムーズに行くことを理解させる。調査票を作成時の注意点を理解させる。「調査分析の方法」を説明する。インターネットを利用した統計データの検索方法を会得させる。ＰＤＣＡの問題解決フレームワークは先の説明のものと少し異なるものであるが、どちらも問題解決の計画を立て、客観的な情報やデータの取得・分析をとおして検討し、新たな課題やアイディアに取り組むといった流れは同じ。　課題を解決するためには統計等を利用して、現象を中立・公平にとらえ、客観的な分析を行っていくことが非常に重要。 | ・生徒の発言に応じ、肯定的な言葉がけを行う。・数字が並んでいる表や、グラフ等が思い浮かんでいればよいことを伝える。・事件・事故やイベント等があった可能性に言及できていれば、賞賛する。・インターネットを利用した統計データの見つけ方を支援する。 |

【ご高評欄】